

南牧小・学校評価だより

令和3年9月1日 No. 1
南牧村立南牧小学校

令和3年度第1回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。学校では、成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。今後もご支援、ご協力をお願いいたします。

令和3年度学校評価一覧表

教育目標の達成状況

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者			評価	評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者			評価	評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者			評価
		職員	家庭	児童				職員	家庭	児童				職員	家庭	児童	
やさしく	返事や挨拶がしっかりできる	100%	100%	94%	A	かしこく	夢の実現に向けて、意欲的に学習する	100%	81%	94%	A	たくましく	運動に親しみ、健(すこ)やかな身体と康(やす)らかな心を鍛える	100%	82%	69%	B
	人の気持ちを感じて行動できる	100%	94%	94%	A		課題可決に向けて、自ら考え、判断し、表現する	100%	82%	88%	B		失敗や困難に負けず、強い心で何事にも取り組む	83%	81%	88%	B
	感謝の心で人や自然に接することができる	100%	94%	94%	A		人や自然に学び、創意・工夫する	100%	82%	94%	A		危険を予測し、主体的に判断し、命を守る行動がとれる	100%	94%	100%	A

※A+Bの割合を%で示しています。

本年度の努力点についての評価 No.1

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者		方 策	評価	成果と課題	2学期の方策	
		職員	家庭				職員	家庭
確かな学力の向上	指導体制や指導方法の工夫・改善を図り、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る。	100%	100%	・全国学力学習状況調査CRT学力検査の結果活用 ・「南牧小スタンダード」の継続・改善	A	・昨年度CRTの児童の分析結果を共有し、児童の課題の把握をすることができた。 ・「授業の流れスタンダード」も提示し、共通理解を図ることができた。	・昨年度のCRTの過去問題やドリル学習を活用し、基礎基本問題に取り組みさせる。 ・校内研修等で「南牧小スタンダード」を継続的に振り返り、改善に努める。	
	体験的な学習や問題解決的な学習を効果的に取り入れ、思考力・判断力・表現力等の知識・技能を活用する力の向上に努める。	100%	100%	・年間指導計画、単元計画を活用した計画的な実施 ・学習計画の校内、地域への周知と連携強化	A	・年間指導計画、単元計画で計画的に学習を進めることができた。 ・校内研修を中心に、南牧村教育CIOと連携を図り、課題を共有することができた。	・引き続き、年間指導計画、単元計画を活用し、計画的な実施に努める。 ・校内研修を中心に、教育CIOとの連携を図り、課題の改善に努める。	
	自ら考え学び合う児童主体の授業実践に努め、学びに向かう力・人間性の涵養に努める。	100%	100%	・必要感、必然性のある課題の設定 ・児童の思考に沿った学習支援の充実	A	・単元、及び1単位授業で必要感、必然性のある課題提示に努めた。 ・児童の実態把握に努め、児童の思考に沿った学習支援の充実に努めた。	・児童の実態把握に努め、身近なところから、必要感、必然性のある課題の設定に努める。 ・児童の思考の時間の確保をし、個に合った学習支援の充実に努める。	
	「みんなのやくそく」の実践により、学習習慣・学習規律の定着を図る。	100%	100%	・「みんなのやくそく」の全校共通体制での実施	A	・「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」の掲示物を年度初めに提示をし、指導に努めた。 ・代表委員会では、そこを基盤として、問題解決を図った。	・学期初めに、改めて指導者が「みんなのやくそく」「話し方」「聞き方」を振り返る機会も設け、課題となるところ改善していく。継続的に児童と振り返る。	
	学力向上計画の組織的な取組に努める。	100%	100%	・児童の実態に基づく対策協議 ・校内研修の充実	A	・「学力向上重点項目」をもとに、授業実践に努めた。 ・一人1授業では、授業検討会、授業研究会等、充実した研修を行うことができた。	・1学期の児童・教師アンケートをもとに、2学期の取組の共通理解を図り、授業改善を行い、学力向上に努める。 ・校内研修で共有した課題を改善していく。	
	「家庭学習の手引き」を活用して家庭と連携を図り、家庭学習の習慣化に努める。	100%	94%	・懇談会、Webページ等での家庭学習の内容や取組の周知 ・ノーメディアデーの設定と家庭への啓発	A	・新たにタブレット自主勉強、全校児童で取り組む「ぐるぐる自主勉ノート」を取り入れ、家庭に周知し、家庭学習の充実に努めた。	・タブレット自主勉強の取組内容を学内で共有し、更なる内容の充実に努める。 ・「ぐるぐる自主勉ノート」の指導を中心に、家庭学習への意識付け、家庭への周知を図る。	
ICTを日常的に活用した教育活動の実践に努める。	100%	100%	・日々の授業におけるICTの活用	A	・新たなICT機器として電子黒板、ドリル学習、ジャムボードなどを積極的に使い、使っていくうちに効果的な使い方を探ることができた。	・校内研修等で、新たなICT機器も含め、効果的だと思ふ取組を指導者の中で共有し授業で実践する。 ・ICT系統表を作成し、系統的な指導に生かす。		
豊かな心の育成	人権教育及び道徳教育を核として心の教育の充実に努める。	100%	100%	・「なかよし月間」や児童会を中心とした活動の充実 ・日常における道徳指導の充実	A	・児童主体の活動を展開することで、児童が自分ごととして捉えることができた。 ・道徳に考え議論する場面を取り入れ心の教育の充実に努めた。	・児童主体の活動になるよう内容を工夫するとともに児童の主体性を伸ばしていけるよう計画を立てる。	
	積極的な生徒指導と児童の心に寄り添った教育相談に努める。	100%	100%	・認める、ほめる指導の徹底 ・生徒指導の三機能を生かした指導の充実	A	・児童が自己有用感や満足感を得られるよう活動を計画したり、取り組む様子をほめたりすることができた。	・児童が自己有用感を得られ、次の活動への意欲を高められるように、活動を計画したり、児童の支援を充実させたりする。	
	よりよい人間関係づくりを基盤とした学級経営に努める。	100%	100%	・共感的な児童理解と社会性を育てる指導の充実 ・教育活動全体を通じたコミュニケーション能力の育成	A	・児童同士が対話する機会や振り返りの場面を設定することで、コミュニケーション能力を高めることができた。	・縦割り活動や委員会などを通して、児童同士の関わりを増やし、さらにコミュニケーション能力を高められるようにする。	
	自己目標をもち、自己理解・自己実現を図るキャリア教育の充実に努める。	100%	100%	・自己の成長を実感できる「キャリアパスポート」の活用 ・教育活動全体を通じたキャリア教育の計画的推進	A	・学期や行事ごとにキャリアパスポートを記入することで、自己成長を実感することができた。	・キャリアパスポートを活用し、教育活動全体を通じたキャリア教育を推進していく。	
	特別支援教育の視点に立ち、一人一人に応じた指導・支援の充実に努める。	100%	100%	・実態把握と個別の支援計画の作成、活用 ・情報の共有化と組織的な対応	A	・専門相談員との連携により、実態把握や今後の支援方法について相談することができた。	・個別の支援計画を活用し、全職員で個に応じた対応をしていく。 ・専門相談員との連携も継続して行っていく。	
小さな変化を見逃さず、不適応や問題行動の早期発見・早期対応に努める。	100%	100%	・日常の観察やアンケート等による問題の早期発見 ・担任間、管理職との連絡を密にした早期対応	A	・いじめアンケートの実施や日常観察をし、指導・報告の流れを徹底することで、早期対応を図ることができた。	・生徒指導報告をもとに職員全体で共有し、早期対応を図っていく。		

本年度の努力点についての評価 No.2

評価の観点	評価項目 【各項目の評価(A+B)が90%であること】	評価者		方 策	評価	成果と課題	2学期の方策
		職員	家庭				
健やかな体づくり	体力向上プランの組織的な取組に努める。	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣の定着と運動の質的・量的確保 柔軟性、瞬発力を高める指導の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童が新体力テストの結果が昨年11月より向上した。 委員会や当番活動などが重なり、児童が外へ出て遊ぶ機会が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果から、体育部で話し合い、今後の課題を職員間で共通理解を図り、引き続き体力向上を目的にした活動を取り入れる。 基本的な生活習慣の定着に向けて、夏休み中の健康チャレンジの結果を生かし、学校保健委員会でも議題に挙げるなど、取組を積極的に行っていく。
	食育や健康教育の充実・家庭との連携により、基本的な生活習慣の定着に努める。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 「健康チャレンジカード」を活用した基本的な生活習慣の定着 学校保健委員会等を通じた啓発活動の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健委員会で自身の健康について振り返りの場面を設定したことで、自分の課題を明らかにし、健康に良い生活をしようと、意識することができた。 	
	安全教育、防災教育の充実により、危険予知能力、危険回避能力の育成に努める。	100%		94%	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教室や避難訓練等による安全意識の高揚 日常生活安全指導を通じた危険予測・危険回避能力の育成 	A	
活カある学校づくり	学校教育目標実現のために、本校の実態に応じた特色ある教育課程のマネジメントに努める。	100%	100%	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の分析と改善策の実行 合同学習や地域と連携した学習活動の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が、校長の経営方針を理解し、児童や地域の実態に応じた教育活動を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校での取組や児童の様子を家庭・地域に伝えられるよう、定期的なWebアップを行っていく。 職員の専門分野を生かし、計画的なOJTの充実を図る。 指導力向上に向け、担任間での授業参観を積極的に行っていく。 経営方針とリンクした目標達成に向けた実践を行う。 一人一授業や参観授業による目標達成状況の管理職による確認を行う。 非違行為の根絶に向けて、計画的に服務規律に関わる研修を行っていく。 授業研究会で出た意見や改善点を次に生かせるよう、ポイントをまとめ共有化を図る。 タブレットを効果的に活用できるよう、ICT系統表を作成する。 勤務時間内での校務に充てる時間を確保するため、校務のローテーション化を図る。 仕事に軽重をつけたより効率的な働き方を推進していく。 2学期のはじめにもマニュアルを再度確認し、共通理解を図る。 予告なしの避難訓練を行い、教員の危機管理意識をより高めるようにする。 修繕箇所の優先順位を管理職と相談し、速やかに対応できるよう声掛けを行っていく。 児童から得た通学路の危険箇所があれば、全職員で共有できるようにする。 今年度の予算残高を見通しながら、計画的に有効かつ効率的な教材調達を行い、教育環境の整備・充実に引き続き取り組んでいく。
	互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 校内におけるOJTの充実 教職員一人一人のよさを発揮できる場の設定 	A	<ul style="list-style-type: none"> 合同授業や校内研修、学校行事等を通し、指導法の共有化や職員同士の交流、児童への関わり方を学ぶことができた。 	
	人事評価制度を適切に活用し、学校経営への参画意識を高めるよう努める。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 経営方針とリンクした業績評価の目標設定 面談機会の活用と進捗状況の報告、確認 	A	<ul style="list-style-type: none"> 当初面談を通して、経営方針とリンクした業績評価の目標設定を行うことができた。 	
	服務規律の確保を徹底する。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 「規律確保行動計画」の沿った研修の実施 「服規律チェックシート」による毎月の確認 	A	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に行動計画に沿った研修を実施し、「服務規律確保チェックリスト」で自己点検を行うことにより、服務規律の確保に努めた。 	
	校内研修を核として職員研修の充実を図り、教職員の指導力向上に努める。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の代表授業や一人1授業を通じた指導力の向上 教職員の資質向上を目指した研修の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に研修を進めることができ、目的意識をもって研修に取り組むことができた。 	
安全安心な学校づくり	校務の精選と効率化による業務改善の推進と勤務時間の適正な管理に努める。	82%	100%	<ul style="list-style-type: none"> 業務の見直しと情報の共有化 在校時間等記録表による勤務時間の管理の徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援アプリを活用し、情報の共有化を図ることができた。 在校時間等記録表を活用した適正な勤務時間の管理が適切にできなかった。 	
	学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス対応の共通理解 様々な時間と事態を想定した避難訓練の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員でマニュアルを確認し、共通理解を図ることができた。 避難訓練を通して、危機管理意識を高めることができた。 	
	学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 校舎内外の毎月の安全点検実施 通学路の安全確認実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検を計画に実施し、点検表の配布・回収をすることができた。 修繕が必要な場合は速やかに事務に報告し、対応をすることができた。 	
地域とともにある信頼される学校づくり	適切な予算執行により、教育環境の整備・充実に努める。	100%	95%	<ul style="list-style-type: none"> 執行状況の共有化 	A	<ul style="list-style-type: none"> 予算執行を教育効果を考慮しながら、管理職と連携し適正に行うことができた。 計画的に補助簿を確認し迅速に教材調達を行い、村教委との連携が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を軸として、三者が連携した教育活動を計画していく。 第1回学校評価の成果と課題を生かし、学校課題の改善を図っていく。 2学期の方策の着実な実施を図る。 学年における更新頻度のバランス化を図っていく。 学校課題や、児童の教育活動の充実に向けて、学校運営協議会との連携を推進し、地域人材の発掘を進める。 小中間の授業参観を実施し、系統だった指導に生かす。 各種行事を通して、保小の連携を密にしていく。
	めざす子ども像を学校、家庭、地域と共有し、連携・協働した教育活動を推進する。	100%		<ul style="list-style-type: none"> めざす子ども像の共有 三者が連携・協働した教育活動の計画と実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校通信やHP、なんもくテレビを活用し、学校の様子を保護者・地域に伝えることができた。 	
	学校評価・学校運営協議会を活用し、学校課題を把握し改善を図る。	100%		<ul style="list-style-type: none"> 学校評価や学校運営協議委員会からの情報収集と課題の明確化 改善策の計画的な実行 	A	<ul style="list-style-type: none"> プール清掃では、地域の方を活用することができた。 1学期の学校評価を通して、学校課題を明確にすることができた。 	
	学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。	100%		<ul style="list-style-type: none"> Webページや各種通信等による学校行事や日常の様子等の情報提供 	A	<ul style="list-style-type: none"> Webページと各種通信を効果的に使い分け、家庭・地域へ情報発信することができた。 	
	地域人材や施設・自然の活用を通して、地域のよさを生かした教育を推進する。	100%		<ul style="list-style-type: none"> ふるさと朝礼、総合、各教科での年間計画に基づいた活用 学校運営協議会を通じた学校ボランティアや外部人材の発掘 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営方針に基づいた地域人材の活用を図ることができた。 学校運営協議会との連携が少しずつ推進できた。 	
保育園や中学校との連携を推進し、幼児教育及び義務教育9年間の系統性ある教育活動に努める。	100%	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携会議による共通理解と共通教育活動の実施 保小連携による行事や授業の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 小学校から中学校へのスムーズな接続に向けて、6年の理科と外国語を中学校の教員が担当し、連携を図ることができた。 保小連携がなかなかできなかった。 			